

命の意味を問いかける映画「半落ち」の 骨髄バンクチャリティー試写会を開催します 1月7日(水)PM6:00～ ヤクルトホール

財団法人骨髄移植推進財団
理事長 高久史磨

骨髄移植推進財団(東京都千代田区、理事長:高久史磨)は、1月7日(水)、東映株式会社との共催で、ドナー登録者の皆さま、患者さん、骨髄バンク支援者の方々を招待して、映画「半落ち」のチャリティー試写会を開催します。

この作品は、昨年に30万部のベストセラーを記録したミステリー作家 横山秀夫氏の同名小説を映画化したものです。物語の主人公 梶 聡一郎は、法を守る警察官でありながら、妻がアルツハイマー病に罹り、病状が悪化する前にとその命を奪うのですが、一方で見ず知らずの青年に骨髄移植のドナーとして命を贈ります。この一見矛盾した行為を軸に、老人介護や出世競争、官僚機構の構造問題など、現代日本が抱えるさまざまな課題が提起されている、社会派エンターテインメントといえる作品です。

チャリティー試写会の会場内には募金箱を設置し、来場者の皆さまに募金を呼びかけます。骨髄移植推進財団は、作品の根底に流れる「生きている実感を、見ず知らずの誰かと共有する」というテーマが、いのちのボランティアといわれる骨髄提供の意義に通ずることから、この試写会を骨髄バンク事業の社会有意性を再確認する機会としたいと考えております。報道関係の皆様方におかれましては、ご多忙中とは存じますが、ぜひ、取材にお越しいただけますようよろしくお願い申し上げます。

一般公開は全国東映系列の劇場にて1月10日からの予定です。

開催日時	平成16年1月7日(水曜日) 18時開場 18時30分開演
開催場所	ヤクルトホール(東京都港区東新橋1-1-19 ヤクルト本社ビル)
予定人数	骨髄バンクドナー登録者・患者、関係者等招待者 約250名 一般招待者 約300名
主催	東映株式会社 / 財団法人 骨髄移植推進財団

【ドナー登録者の年間取り消し数は約7,000人】

現在、日本骨髄バンクは約18万人の方にドナー登録をしていただいておりますが、登録患者の9割に移植の機会を提供するには、30万人のドナー登録者が必要とされています。年間2万人以上の登録がある一方、そのうち7,000人の方がドナー登録年齢を超過した、骨髄提供の意思がなくなってしまった、家族の同意が得られないといった理由からドナー登録を抹消されており、これが本邦のドナー登録者数が伸び悩む要因のひとつとされています。本イベントは、一般招待者の方にドナー登録の意義をお考えいただき、骨髄バンクのドナー登録者の皆さまとその近しい方々には、映画を楽しみながらドナー登録されたきっかけを改めて思い起こしていただければと企画されたものです。

【原作者 横山秀夫氏もドナー登録しています】

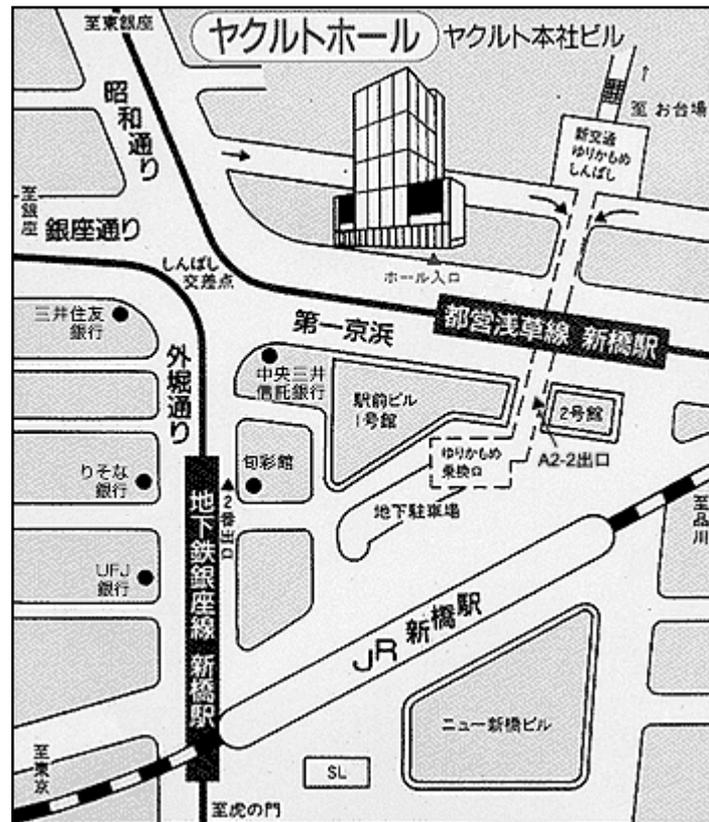
主人公が急性骨髄性白血病で息子を亡くし、それをきっかけにドナー登録をしたという設定は、原作者 横山秀夫氏のご家族が、骨髄バンクを通じて骨髄提供を受けた体験がベースになっているとのこと。それゆえにこの原作には真に迫る切実感があり、2002年9月の刊行からいまだに増刷を重ねている事実が語るとおり、ミステリーという娯楽の枠を超え、幅広い層の支持を得ています。

【スケジュール】

- 18時00分 開場
- 18時30分 開演 舞台挨拶
東映株式会社 常務取締役 坂上 順
出演者 高橋 一生さん（移植を受けた患者：池上一志役）から
財団理事長に目録・花束贈呈など簡単なセレモニーを予定
- 18時45分 上映開始（上映時間2時間2分）
- 20時47分 上映終了

リリース配布先：厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、東京都庁記者クラブ
本件に関するお問い合わせ：財団法人 骨髄移植推進財団 担当：山崎・吉里
(電話) 03-5280-0997 (FAX) 03-5280-0101

ヤクルトホール周辺図



- J R** 新橋駅徒歩5分
- 地下鉄** 都営浅草線 新橋駅 A2-2出口 徒歩1分
銀座線 新橋駅 2番出口 徒歩3分
- 車** 第一京浜（国道15号）新橋交差点すぐ
首都高速は、汐留出口より昭和通りを新橋方向へ
ホールに駐車場はございません